

① 市野谷の森(通称:おたかの森)

資料 2



市の鳥である オオタカが生育・繁殖する、24 ha におよぶ市内最大級の平地林。つくばエクスプレスの沿線開発による宅地造成等により周辺環境の変化が著しい場所。

環境タイプ

調整池 湿地 草地

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	153	203	195	187								
	絶滅危惧種数	3	5	5	5								
	2011 ワニグチソウ(C)、ヤブムグラ(B)、ササクサ(C)												
	2012 ジュウニヒトエ(D)、ヤブムグラ(B)、ワニグチソウ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)												
鳥類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	20	20・27	19・24	20・1	21・24	16・22	26・20	20・20	17・23	11・25	30	26
	絶滅危惧種数	3	10	9	6	6	6	7	6	7	7	6	3
	2011 オオタカ(C)、ホオジロ(C)、ノスリ(C)												
	2012 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、コチドリ(B)、セッカ(D)、センダイムシクイ(C)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトギス(C)												
	2013 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、クロジ(D)、サンコウチョウ(A)、ヒバリ(D)、フクロウ(B)、ホオジロ(C)、ホトギス(C)												
	2014 オオタカ(C)、オオルリ(B)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトギス(C)												
	2015 イワツバメ(D)、オオタカ(C)、キビタキ(A)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												
	2016 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												
	2017 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、ツミ(D)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												
	2018 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、キビタキ(A)、センダイムシクイ(C)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												
	2019 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、クロジ(D)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												
	2020 アカゲラ(C)、オオタカ(C)、カケス(D)、カワセミ(C)、ツミ(D)、ヒバリ(D)、ミソサザイ(C)												
	2021 オオタカ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、クロジ(D)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)												
2022 カケス(D)、コチドリ(A)、ヒバリ(D)													
チョウ類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	34	37	38	40	42	45	43	39	41	41	42	40
	絶滅危惧種数	3	3	2	4	5	6	4	3	4	2	5	3
	2011 ミヤマチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、オオチャバネセセリ(C)												
	2012 オナガアゲハ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)												
	2013 ゴマダラチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)												
	2014 オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)												
	2015 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)												
	2016 ミヤマチャバネセセリ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ミドリヒョウモン(C)、アカシジミ(C)												
	2017 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)												
2018 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)													

	2019 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C) 2020 アカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C) 2021 アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、コムラサキ(C) 2022 アカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、コムラサキ(C)
アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ニホンアカガエル 市野谷の森内で9拠点を調査している。例年一定数を確認できており、R4では、2拠点を50を超える卵塊数(51、99)を確認している。 ※ヘイケボタル、カヤネズミは調査なし

(モニタリング調査員 意見)

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

(多様性 評価結果)

オオタカをはじめとする鳥類の絶滅危惧種数の確認数が多い。他調査種をみても、数年を比較して大きな増減なく一定の種類数を確認できており、今後も希少種の生育が見込まれる。

② 市野谷水鳥の池



水鳥をはじめとした多様な生物の生息環境維持を目的とした工法である「ミティゲーション手法」により整備された流山おおたかの森駅そばの調整池。近年は池の一部の陸地化が進行しつつあり、水辺に樹木やガマが定着し始めている。

環境タイプ

調整池 湿地 草地

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					160	160	136	139	149	102	150	146
	絶滅危惧種数					7	6	4	4	4	2	7	6
2015 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、カワラヨモギ(C)、ヤガミスゲ(D)、カンエンガヤツリ(D)、ミゾコウジュ(D)、タタラカンガレイ(D)、 2016 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ヤガミスゲ(D)、カンエンガヤツリ(D)、タタラカンガレイ(D)、ネナシカズラ(A) 2017 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ヤガミスゲ(D)、ミゾコウジュ(D) 2018 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ヌマガヤ(B)、タタラカンガレイ(D) 2019 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、ミゾコウジュ(D)、タタラカンガレイ(D) 2020 ヤガミスゲ(D)、ミゾコウジュ(D) 2021 ウスゲチョウジタデ(NT)、カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、イヌハギ(C)、ヤガミスゲ(D)、ミゾコウジュ(D)、コムラサキ(C) 2022 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、サクラソウ(NT)、オノエヤナギ(C)、コムラサキ(C)、ミゾコウジュ(D)													

(モニタリング調査員 意見)

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

(多様性 評価結果)

植物のみの調査拠点であるが、数年を比較して大きな増減なく一定の種類数を確認できており、今後も希少種の生育が見込まれる。

③ 西初石小鳥の森



かつては市野谷の森にあった谷津とつながる大畔北谷津に位置する森。野鳥観察の散策路が整備され、ヘイケボタルが自然繁殖していることから、市民に親しまれ散策や観察会などが多く行われる場所である。

環境タイプ

谷津 斜面林 湧水 湿地

(モニタリング調査データ)

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	118	129	158	161			86	55	63	78	88	70
	絶滅危惧種数	3	2	3	4			2	2	2	3	2	3
植物	2011 キンラン(D)、ササクサ(C)、ヤブスゲ(C)												
	2012 キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2013 キンラン(D)、ササクサ(C)、ワニグチソウ(C)												
	2014 キンラン(D)、ササクサ(C)、ヌマガヤ(B)、ワニグチソウ(C)												
	2017 キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2018 キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2019 キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2020 キンラン(D)、ササクサ(C)、ワニグチソウ(C)												
	2021 キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2022 キンラン(D)、ササクサ(C)、ウシタキソウ(C)												
	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	--15	12・19	12・18	11・--								
	絶滅危惧種数	1	2	2	1								
鳥類	2011 カケス(D)												
	2012 カケス(D)、ホトギス(C)												
	2013 アカゲラ(C)、カケス(D)												
	2014 カケス(D)												
	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	21	25	27	24								
	絶滅危惧種数	1	1	1	1								
チョウ類	2011 ゴマダラチョウ(C)												
	2012 ゴマダラチョウ(C)												
	2013 ゴマダラチョウ(C)												
	2014 ミドリヒョウモン(C)												

アカガエル	ヘイケボタル
ヘイケボタル	市内で最もヘイケボタル観測数が多い拠点の一つ。個体数についても 2019 年 34、2020 年 41、2021 年 50、2022 年 62 と一定数を観測するとともに増加傾向にある。
カヤネズミ	

(モニタリング調査員 意見)

地形が良好である。この拠点における調査対象では無いが、ニホンアカガエルも確認できている。

(多様性 評価結果)

絶滅危惧種数の観測数自体は少ないものの、植物、鳥類、鳥類を総じて一定の観測数を記録し続けている。また、ヘイケボタルについては市内拠点で最も観測数が多い拠点の一つであり、良好な地形を生かし、引き続き重要拠点の一つと考える。

④ 大畔の森(稲荷神社裏の谷津)



人の手によって維持管理されてきた里山環境が残っている谷津です。湧水があり、ヘイケボタルが生息し付近でもキツネが目撃されるなど、豊かな自然環境が残る場所です。この豊かな自然環境を後世に残したいと地権者から寄附の申し出を受け、2013年4月に市に所有権が移転された。

環境タイプ

谷津 斜面林 湧水 湿地

(モニタリング調査データ)

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数								129	137	136	59	190
絶滅危惧種数								3	2	2	3	10	13
植物	2017	タチゲヒメヘビイチゴ(C)、トチバニンジン(D)、ウシタキソウ(C)											
	2018	トチバニンジン(D)、ウシタキソウ(C)											
	2019	トチバニンジン(D)、ウシタキソウ(C)											
	2020	キンラン(D)、ワニグチソウ(C)、ウシタキソウ(C)											
	2021	イガホオズキ(C)、キンラン(D)、ワニグチソウ(C)、ササバキンラン(D)、シソクサ(D)、ジュウニヒトエ(D)、タチゲヒメヘビイチゴ(C)、トチバニンジン(D)、ヒメゴウソ(D)、ヤガミスゲ(D)											
	2022	イガホオズキ(C)、イヌハギ(C)、ウシタキソウ(C)、キンラン(D)、サギソウ(A)、ササバキンラン(D)、シソクサ(D)、ジュウニヒトエ(D)、トチバニンジン(D)、ヒメゴウソ(D)、ヤガミスゲ(D)、ヤブスゲ(C)、ワニグチソウ(C)											
アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ヘイケボタル 個体数について2019年17、2020年11、2021年39、2022年27と継続して一定数を観測している。												

(モニタリング調査員 意見)

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

(多様性 評価結果)

植物相の絶滅危惧種数の観測数の増加が顕著である。ヘイケボタルも一定数を観測し続けており、良質な水環境が維持されていると判断する。

⑤ 大堀川



手賀沼へ注ぐ全長 6.9 km の一級河川。「新市街地地区大堀川防災調整池修景整備方針」に基づき、植栽、園路等が整備された。近年は特定外来生物の侵入が目立つ。

環境タイプ 河川 湿地 河畔林 斜面林

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					221	232	168	145	172	136	173	153
	絶滅危惧種数					8	8	3	1	2	1	4	2
	2015 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、イヌアワ(D)、ミゾコウジュ(D)、シラン(C)、コホタルイ(A)、ミゾコウジュ(D)、キンガヤツリ(B) 2016 カワヂシャ(NT)、タコノアシ(NT)、シラン(C)、セトガヤ(A)、ミゾコウジュ(D)、コホタルイ(A)、キンガヤツリ(B)、タカアザミ(D) 2017 カワヂシャ(NT)、シラン(C)、ミノボロ(C) 2018 カワヂシャ(NT) 2019 カワヂシャ(NT)、ミゾコウジュ(D) 2020 カワヂシャ(NT) 2021 カワヂシャ(NT)、ミゾコウジュ(D)、ミノボロ(C)、キンガヤツリ(B) 2022 カワヂシャ(NT)、ミゾコウジュ(D)												

(モニタリング調査員 意見)

水辺と比較して、遊歩道は多様性が弱い。

(多様性 評価結果)

絶滅危惧種数の減少が見られる。調査員の評価も低い。

右 越冬期	絶滅危惧種数	14	17	22	17								
	2011	イソシギ(A)、イワツバメ(D)、オオヨシキリ(D)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、キセキレイ(B)、コサギ(B)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)											
	2012	イカルチドリ(C)、イソシギ(A)、オオヨシキリ(D)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、キセキレイ(B)、コサギ(B)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハイタカ(B)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ヨシゴイ(A)											
	2013	アカゲラ(C)、イカルチドリ(C)、イソシギ(A)、オオジュリン(D)、オオバン(C)、オオヨシキリ(D)、カイツブリ(C)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、クサシギ(C)、コサギ(B)、サンバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ツミ(D)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)											
	2014	イソシギ(A)、オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、クサシギ(C)、コサギ(B)、コチドリ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ツミ(D)、ノスリ(C)、バン(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)											
チョウ類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数		30	33	36	32	35	36	32	35	38	32	32
	絶滅危惧種数		10	3	6	2	4	7	4	7	6	3	2
	2012	ギンイチモンジセセリ(NT)、アカシジミ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、コムラサキ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)											
	2013	ギンイチモンジセセリ(NT)、ミヤマチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)											
	2014	ギンイチモンジセセリ(NT)、ミヤマチャバネセセリ(C)、ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ゴマダラチョウ(C)、オオチャバネセセリ(C)											
	2015	ギンイチモンジセセリ(NT)、ミヤマチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)											
	2016	ギンイチモンジセセリ(NT)、ジャノメチョウ(C)											
	2017	ギンイチモンジセセリ(NT)、ヤマチャバネセセリ(C)、コムラサキ(C)、ジャノメチョウ(C)											
	2018	ギンイチモンジセセリ(NT)、ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)											
	2019	ギンイチモンジセセリ(NT)、ウラナミアカシジミ(C)、アカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)											
	2020	ウラナミアカシジミ(C)、アカシジミ(C)、ミズイロオナガシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)											
	2021	ミヤマチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)											
2022	ミドリヒョウモン(C)、ジャノメチョウ(C)												
アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ヘイケボタル 2019年19、2020年4、2021年4、2022年3												

(モニタリング調査員 意見)

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

(多様性 評価結果)

植物相、チョウ類だけでなく、鳥類において顕著な絶滅危惧種数を記録している。調査拠点として他拠点と規模の違いはあるが、市内でも良質な水環境が維持されていると判断する。

⑦ 理窓会記念自然公園



利根運河右岸に隣接し、東京理科大学が所有する自然公園。東深井谷津の複雑な地形や生態系を残している。「境田排水樋管」に落差を解消する魚道が整備されたほか、公園内では湿地再生の取組が行われている。

環境タイプ

森林 草地 池 湿地

(モニタリング調査データ)

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
	確認種数	182	277	304	262			196	174	192	134	202	236	
	絶滅危惧種数	4	9	11	15			4	2	5	3	6	6	
植物	2011 キンラン(D)、ギンラン(D)、ノジトラノオ(C)、チャボチヂミザサ(D)													
	2012 アマナ(C)、キンラン(D)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、タチフウロ(D)、チャボチヂミザサ(D)、ノジトラノオ(C)、ヤブムグラ(C)、ヤマラッキョウ(D)													
	2013 アマナ(C)、イヌアワ(D)、ウメモドキ(C)、オミナエシ(D)、キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、チョウセンガリヤス(D)、ノジトラノオ(C)、ヤブムグラ(C)													
	2014 エビネ(D)、オミナエシ(D)、カセンソウ(C)、キンラン(D)、ギンラン(D)、クルマバナ(D)、コオニユリ(C)、ジュウニヒトエ(D)、タチフウロ(D)、ノジトラノオ(C)、ハネガヤ(C)、フナバラソウ(C)、マキエハギ(D)、ヤブムグラ(C)、ヤマラッキョウ(D)													
	2017 キンラン(D)、ギンラン(D)、ノジトラノオ(C)、ジュウニヒトエ(D)													
	2018 キンラン(D)、ノジトラノオ(C)													
	2019 キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ノジトラノオ(C)、ジュウニヒトエ(D)													
	2020 キンラン(D)、ギンラン(D)、ヤブムグラ(C)													
	2021 キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、ノジトラノオ(C)、ヤブムグラ(C)													
	2022 イヌアワ(D)、キンラン(D)、ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、ヤブムグラ(C)													
	鳥類 ※左 繁殖期 右 越冬期	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		確認種数	--30	28・37	28・36	28--								
絶滅危惧種数		4	12	13	5									
2011 カイツブリ(C)、カサセミ(C)、バン(B)、ホオジロ(C)														
2012 オオヨシキリ(D)、オオルリ(B)、カイツブリ(C)、カケス(D)、カサセミ(C)、キセキレイ(B)、キビタキ(A)、コサギ(B)、ダイサギ(D)、ノスリ(C)、ハイタカ(B)、ホオジロ(C)														
2013 アカゲラ(C)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、カケス(D)、カサセミ(C)、コサギ(B)、トラツグミ(A)、ノスリ(C)、ハイタカ(B)、バン(B)、フクロウ(B)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)														
2014 カイツブリ(C)、バン(B)、ダイサギ(D)、ホオジロ(C)、ホトトギス(C)														
チョウ類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
	確認種数		31	35	36	37	38	35	33	38	39	40	42	
	絶滅危惧種数		4	3	5	3	5	4	2	2	4	5	6	

	<p>2012 ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)</p> <p>2013 ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)</p> <p>2014 ウラナミアカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)</p> <p>2015 ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)</p> <p>2016 ウラナミアカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、ミヤマチャバネセセリ(C)</p> <p>2017 ウラナミアカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)</p> <p>2018 アカシジミ(C)、ジャノメチョウ(C)</p> <p>2019 ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)</p> <p>2020 ウラゴマダラシジミ(C)、アカシジミ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)</p> <p>2021 アカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)</p> <p>2022 アカシジミ(C)、オオチャバネセセリ(C)、ゴマダラチョウ(C)、ジャノメチョウ(C)、ミドリヒョウモン(C)、オオウラギンズジヒョウモン(A)</p>
<p>アカガエル</p> <p>ヘイケボタル</p> <p>カヤネズミ</p>	<p>ニホンアカガエル</p> <p>この拠点内を 10 拠点に分けて卵塊数を調査している。</p> <p>2019 年 147、2020 年 212、2021 年 349、2022 年 223</p> <p>ヘイケボタル</p> <p>2019 年 10、2020 年 2、2021 年 62、2022 年 15</p> <p>カヤネズミ 巣の数</p> <p>2019 年 0、2020 年 7、2021 年 1、2022 年 2</p>

(モニタリング調査員 意見)

特になし。重要拠点であるという共通認識を持っている。

(多様性 評価結果)

市内で最も多様な水環境の一つであり、拠点の中でも全指標を調査、観測できる貴重な拠点である。今後も維持が望まれる。

⑧ 西深井北西部



新川耕地の水田地帯は「葛飾早稲」の発祥の地でもあり、古くから良好な水田地帯として様々な動植物が観察されている。江戸川河川事務所が管理する国有地のヨシ原で、希少種のヨシゴイやカヤネズミが繁殖していたが、近年はヨシ原の面積が減少しているため、生息が危ぶまれている。

環境タイプ	草地 水田 斜面林 ヨシ原 畔 用水路
-------	------------------------

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	182	243	267	234			235	206	217	165	165	203
	絶滅危惧種数	5	7	8	7			8	6	5	4	4	4
2011 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D) 2012 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ホソバイスタデ(C)、ミゾコウジュ(D) 2013 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ホソバイスタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヒメタデ(D) 2014 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、タコノアシ(NT)、サデクサ(D)、ホソバイスタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヒメタデ(D) 2017 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、スジスマハライ(D)、ホソバイスタデ(C)、ミゾコウジュ(D)、ヒメタデ(D)、タカアザミ(D) 2018 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、ホソバイスタデ(C)、ノニガナ(C)、ヒメタデ(D) 2019 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、ヒメタデ(D)、タカアザミ(D) 2020 ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ヒメタデ(D) 2021 ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、カネンガヤツリ(D)、ヒメタデ(D) 2022 カワヂシャ(NT)、ウスゲチョウジタデ(NT)、サデクサ(D)、ホソバイスタデ(C)													
鳥類 ※左 繁殖期 右 越冬期	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数	25	30・35	29・30	35--	31・32	25・30	28・29	30・35	31・35	29・34	46	48
	絶滅危惧種数	11	17	17	16	16	13	11	15	15	17	17	17
2011 オオヨシキリ(D)、コザギ(B)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C) 2012 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C) 2013 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カッコウ(C)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、バン(B)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C) 2014 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)、ホトギス(C)、ムナグロ(B) 2015 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コザギ(B)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、バン(B)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C) 2016 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ツミ(D)、ノスリ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C) 2017 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C) 2018 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、ケリ(A)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、													

	ノスリ(C)、バン(B)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)
	2019 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒクイナ(A)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)
	2020 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、コチドリ(A)、コヨシキリ(D)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒクイナ(A)、ハヤブサ(A)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)
	2021 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、クサシギ(C)、ケリ(A)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ハヤブサ(A)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)
	2022 オオジュリン(D)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、クイナ(X)、コチドリ(A)、サシバ(A)、セッカ(D)、ダイサギ(D)、タゲリ(D)、チュウサギ(B)、ノスリ(C)、ヒクイナ(A)、ホオアカ(C)、ヒバリ(D)、ヨシゴイ(A)、ホオジロ(C)、ムナグロ(B)
アカガエル ヘイケボタル カヤネズミ	ニホンアカガエル 2019年0、2020年0、2021年0、2022年0 カヤネズミ 2019年1、2020年1、2021年18、2022年2

(モニタリング調査員 意見)

近隣の開発による影響が大きい中、絶滅したと思われたニホンアカガエルの子カエルを観測したほか、カヤネズミや猛禽類も観測されており、多様な種が観測できる貴重な拠点である。

(多様性 評価結果)

鳥類において顕著な絶滅危惧種数を観測している。他調査種で観測数が小さい結果も散見されるが、調査員のコメントのとおり多様な種が観測できる貴重な拠点であると判断する。

⑨ みやぞの野鳥の池、坂川、熊野神社周辺の森



みやぞの野鳥の池は野鳥観察を通じて市民が安らぎを覚える“水と緑の空間”の創造を基本理念とし、自然環境に配慮した整備が行われています。近年では希少種であるガガブタが調整池内に生息する生物により食害を受けている。坂川は1955年代後半から都市化に伴い汚染が進んだが、1994年には国、県、市、市民による水質改善事業清流ルネッサンスの取組に着手し、現在はきれいな川がよみがえった。熊野神社周辺の森は東葛地方には珍しい極相林を有している森。

(モニタリング調査データ)

環境タイプ

森林 草地 池 湿地

	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
	確認種数						155	214	187	149	157	120	183.	155
絶滅危惧種数						8	4	2	5	3	2	5	3	
植物	2015	ガガブタ(C)、キンラン(D)、コムラサキ(C)、ササクサ(C)、シラン(C)、センリョウ(D)、ミゾコウジュ(D)、ヤマハンノキ(D)												
	2016	キンラン(D)、コムラサキ(C)、ササクサ(C)、シラン(C)												
	2017	ササクサ(C)、シラン(C)												
	2018	キンラン(D)、ササクサ(C)、シラン(C)、センリョウ(D)、ヤマハンノキ(D)												
	2019	ササクサ(C)、シラン(C)、ヤマハンノキ(D)												
	2020	ササクサ(C)、センリョウ(D)												
	2021	ササクサ(C)、シラン(C)、センリョウ(D)、ミゾコウジュ(D)、ヤマハンノキ(D)												
	2022	キンラン(D)、シラン(C)、センリョウ(D)												
	鳥類 ※左 繁殖期 右 越冬期	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
		確認種数					13・15	17・19	15・14	14・20	15・19		16	20
絶滅危惧種数						2	3	3	3	3		1	2	
2015		アカゲラ(C)、カケス(D)、キビタキ(A)、コサギ(B)、フクロウ(B)、ホオジロ(C)、ホトギス(C)												
2016		キビタキ(A)、ホオジロ(C)、ホトギス(C)												
2017		カケス(D)、キビタキ(A)、ホオジロ(C)												
2018		アカゲラ(C)、キビタキ(A)、ホオジロ(C)												
2019		キビタキ(A)、コサギ(B)、ホオジロ(C)												
2021		ホオジロ(C)												
2022		キビタキ(A)、ホオジロ(C)												

(モニタリング調査員 意見)

拠点エリアが広い箇所である。みやぞの野鳥の池ではカワセミ、カイツブリ、バンといった鳥たちの繁殖地になっていて貴重な拠点である一方で、坂川付近は植物相も鳥類も多様性は豊富ではない。しかし、熊野神社周辺の森は日当たりが悪く植物相は厳しいものの、鳥類において希少な種が計測されており、市内でも貴重な森環境を踏まえても、一定の評価できる。

(多様性 評価結果)

熊野神社周辺の森は市内でも貴重な森環境であり、一定数の鳥類を観測しているほか、周辺の環境も少なからず一定数の希少な種が活動が見られるため、拠点として評価する。

⑩ 西平井水鳥の池



西平井・鰭ヶ崎地区の土地区画整理地の中にある調整池。付近の住戸にはグリーンチェーン認定を取得した戸建第 1 号があり、街中にはせせらぎを再生した緑道が整備されるなど、「人と自然がふれあうまち」をめざして水と緑のネットワークの形成が行われている。

環境タイプ 調整池 草地

(モニタリング調査データ)

鳥類 ※左 繁殖期 右 越冬期	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	
	確認種数								14・14	13・12	14・13	9・12	19	17
	絶滅危惧種数								7	3	4	3	5	4
	2017 オオバン(C)、オカヨシガモ(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、コアジサシ(A)、コチドリ(A)、ヒバリ(D) 2018 オオバン(C)、カイツブリ(C)、コチドリ(A) 2019 オオバン(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、コアジサシ(A) 2020 コアジサシ(A)、カイツブリ(C)、バン(B) 2021 オオバン(C)、カイツブリ(C)、コアジサシ(A)、ハイタカ(B)、バン(B) 2022 オオバン(C)、カイツブリ(C)、コチドリ(A)、バン(B)													

(モニタリング調査員 意見)

葦の範囲が狭小化しているためか、水鳥の繁殖も今後見込めない。現状は厳しい。

(多様性 評価結果)

絶滅危惧種数は一定数観測されているが、調査員の意見のとおり環境に乏しく今後の見込みが小さいこと、鳥類のみと調査する指標種も少ないため、評価として低い。

⑪ 芝崎小鳥の森



芝崎台地にある湿地帯を利用して、1989年3月にできた公園です。カシ等の常緑樹、スギ、ヒノキの植栽がみられるほか、イヌシデ、ミズキ、ハリギリといった落葉広葉樹が広がっている。また、アカマツの大木が数本ある、流山市南部に残る貴重な森。

環境タイプ 湿地 森林

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					94	171	100	87	87	69	78	36
	絶滅危惧種数					2	7	6	6	5	3	4	1
	2015 キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2016 シラン(C)、タイワンホトギス(CR)、オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)												
	2017 オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、センリョウ(D)												
	2018 オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)、ササバギンラン(D)												
	2019 オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)、ジュウニヒトエ(D)												
	2020 オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)												
	2021 オオバギボウシ(C)、キンラン(D)、ササクサ(C)、ギンラン(D)												
	2022 キンラン(D)												

(モニタリング調査員 意見)

水辺はあるが、生息種類が少ない。草刈や整備不足が影響していると思われる。池や水辺があり、整備すれば高評価の見込みがある。

(多様性 評価結果)

植物相は絶滅危惧種数を少ないながら記録している。調査員の意見のとおり、今後整備により期待できる水環境が存在することから、中評価とする。

⑫ 野々下水辺公園周辺



利根川の水を坂川に導水する北千葉導水路の地上部に、導水の一部を利用して小川の雰囲気を再現した公園。2000年度にオープンし、散策などに適しています。周辺には斜面林が残っており、林縁の湿地にはニホンアカガエルの産卵地がある。

環境タイプ

森林 湧水 河川

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数							116	120	127	156		136
	絶滅危惧種数							1	1	1	1		1
	2017 サデクサ(D) 2018 サデクサ(D) 2019 サデクサ(D) 2020 キンラン(D) 2022 マヤラン(C)												
鳥類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					13・22	16・25	16・18	19・20				
	絶滅危惧種数					6	6	5	9				
	2015 オオヨシキリ(D)、カケス(D)、キセキレイ(B)、キビタキ(A)、サンバ(A)、ノスリ(C) 2016 オオヨシキリ(D)、カケス(D)、キセキレイ(B)、コサギ(B)、ダイサギ(D)、ホオジロ(C) 2017 オオヨシキリ(D)、キビタキ(A)、ノスリ(C)、ホオジロ(C)、サンコウチョウ(A) 2018 アカゲラ(C)、オオヨシキリ(D)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、サンバ(A)、ダイサギ(D)、ハイタカ(B)、ヒバリ(D)、ホオジロ(C)												
アカガエル	ニホンアカガエル												
ハイケボタル	6 拠点に分けて調査している。												
カヤネズミ	2019年25、2020年37、2021年30、2022年22												

(モニタリング調査員 意見)

植物相は観測数が少ない。鳥類では繁殖が見られ、アカガエルの観測も考慮すると良質な環境と考える。周辺の谷津環境が良質であり、影響していると考え。

(多様性 評価結果)

植物相の評価が低いものの、鳥類やニホンアカガエルが一定数観測されること、また環境として周辺の谷津環境が影響しており今後も良質な環境が保たれると判断する。

⑬総合運動公園周辺



1977年8月1日に完成した総合運動公園は、市内ではあまり見られないブナの植栽があるなど、緑が豊かで人の利用が多い、人と自然が近い公園であり、つくばエクスプレス沿線土地区画整理事業地内の緑化推進エリアにおける緑の拠点となっている。公園の東側にある古間木調整池は、周辺が草斜面斜面林、水田などに囲まれ、多くの水鳥や水生生物が生息する場所として期待されている。

環境タイプ

森林 草地 調整池

(モニタリング調査データ)

植物	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数								78	92	91	125	172
絶滅危惧種数								2	1	-	1	4	1
2017 キンラン(D)、ギンラン(D)													
2018 キンラン(D)													
2020 ドクゼリ(A)													
2021 ギンラン(D)、ササバギンラン(D)、ミノボロ(C)、ミズハナビ(C)													
2022 ギンラン(D)													
鳥類	年	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022
	確認種数					12・19	28・33	18・31	27・31	26・34	17・30	40	38
絶滅危惧種数					1	10	7	8	6	10	6	5	
2015 カイツブリ(C)													
2016 オオバン(C)、オオヨシキリ(D)、オカヨシガモ(C)、カイツブリ(C)、カケス(D)、カワセミ(C)、キビタキ(A)、ダイサギ(D)、ノスリ(C)、ホトギス(C)													
2017 オオバン(C)、オカヨシガモ(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、コチドリ(A)、ノスリ(C)、バン(B)													
2018 イワツバメ(D)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、カンムリカイツブリ(D)、サンバ(A)、ノスリ(C)、ホオジロ(C)													
2019 オオバン(C)、カイツブリ(C)、カワセミ(C)、カンムリカイツブリ(D)、ホオジロ(C)、ミソサザイ(C)													
2020 アカゲラ(C)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、コサギ(B)、コチドリ(A)、サンバ(A)、セッカ(D)、ノスリ(C)、ホオジロ(C)、ヒバリ(D)													
2021 アカゲラ(C)、カイツブリ(C)、カケス(D)、ハイタカ(B)、ホオジロ(C)、ヒバリ(D)													
2022 アカゲラ(C)、オオバン(C)、カイツブリ(C)、ホオジロ(C)、ヒバリ(D)													

(モニタリング調査員 意見)

植物相は公園内の整備の影響か、絶滅危惧種数の観測数が少ない状態が続いている。しかし、周辺の地形や水環境は良質であり、市内で最大の公園という面も考慮すると多様性の維持が必要である。

(多様性 評価結果)

植物相の観測数は低いが、鳥類は一定数を観測できる貴重な公園である。公園整備が終了すれば観測数の向上も見込まれるため、多様性の評価は維持する。